２０１９年1月1日　　日本ボーイスカウト北海道連盟

日本ボーイスカウト北海道連盟だより　１５５号

斧の響き

第17回日本スカウトジャンボリー

名称：第１７回日本スカウトジャンボリー（略称：１７ＮＳＪ）
（英語名称 17th　NIPPON　SCOUT　JAMBOREE）

会期：平成３０年（２０１８年）８月４日（土）～１０日（金）

会場：石川県珠洲市蛸島町「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」

参加人数

スカウト	指導者	大会運営スタッフ
９２	１５	１１

派遣隊指導者

第１隊（函館、石狩、札幌）		第２隊（札幌）		第３隊（函館、石狩、札幌以外）	
隊　長	上原　克己	隊　長	畠山　英昭	隊　長	田中　卓
副　長	川越　利朗	副　長	中屋敷光明	副　長	村上　政義
副　長	村上　義憲	副　長	菊池　重芳	副　長	武田　浩慎
副　長	大島　久代	副　長	小原由美子	副　長	櫛井　陽介
副　長	吉田　房子			副　長	加藤　由麻
				副　長	伊藤　珠美

大会運営スタッフ

サブキャンプ本部（派遣団本部）		大会運営本部	
チーフ	三国　久介	安全救護部	村上　壮一
副チーフ	下田　好徳	全体行事部	北　　秀継
副チーフ	清水　義明	プログラム部	高橋　大祉
庶務班	吉岡　優二	プログラム部	戸田　弥祥
安全救護班	杉田　　肇	プログラム部	船橋　和幹
安全救護班	吉田　　透		

大会記念碑

ブレバリーサブキャンプ

ブレバリーサブキャンプ

奥島理事長

北海道連盟展示ブース（下田　豊松）

吉田連盟長来場

メインゲート

１４ＮＪ／９ＮＡ　記念碑

北海道第１隊

北海道第２隊

北海道第３隊

１隊のスカウトが皇太子様とお話をしました。

Q：楽しいですか　　A：はい楽しいです。
Q：何が一番楽しいですか
　　A：毎日行うプログラムです。
　　A：友情ゲームです。沢山友達ができました。
Q:これから何が楽しみですか
　　A：海のプログラムです。
Q：大丈夫　暑くないですか　A：はい大丈夫です。
Q：この隊は北海道のどこから来たのですか
　　A：札幌とか色々なところから来ています。
それではお身体に気を付けて頑張ってください。

参加スカウトの感想

・上級班長として参加しましたが、自分で動いてしまい、班長に上手く指示ができなかった。
・今までは班を一つにするために全員が正しく同じ行動をすることが大切だと思っていましたが、それぞれが違う行動や考えをすることで、そこから新たに学ぶことが多いと知りました。
・こんなに長いキャンプ生活は初めてで、何を持って行ったら良いのか、現地で何をしたら良いのかなど沢山の不安がありましたが、ジャンボリーで全国の人と出会いがあり、この場所で出会った人たちとの思い出は一生の思い出です。
・特に楽しかったことはレザークラフトでチーフリングを作ることができたこと。各エリアでボーイスカウト技能を使うイベントや制作のイベントを楽しむことができた。
・交歓会では他県の人と交流ができて楽しかった。
・学校と違い同学年以外の人もいるので、その人達に合わせた指示をしたり、行動したりすることがとても大切なことだと思った。
・プログラム「日本一の手旗」「ハイキング」「焚き付け」「班旗たて」特に「班旗たて」が楽しかった。
・班長として大会に参加した。いつも次長、班員に支えられていた気がする。幾度となく、衝突、妥協があり、磨きをかけながら成長して行けたと思う。仲間とともに創ってゆける素晴らしい大会だった。
・このジャンボリーでは人と人との絆や冒険心が一人ひとり身に付けられたと感じました。
・様々なプログラム、他県のスカウトとの交流、皇太子さまがいらっしゃり、ジャンボリー大集会でも色々なことがあり退屈しませんでした。最初は正直帰りたいと思ったことが何度もありましたが、大会が明日で終わる今夜はこのメンバーともう少し一緒にいたいと思いました。
・一番嬉しかったのは他県の人や道内の団の人と友達になれたことです。

全国防災キャラバン２０１８

会場名　：イオンモール苫小牧店
実施日　：７月２２日（日）　１０：００～１６：００
来場者数：１００名
相談を受けた人：２０名
スタッフ：４０名

プログラム内容
（工夫のポイント）
・救急法（簡易担架、三角巾、タオル、買い物袋等の活用法）
・ロープ結びの体験（ロープ結びの見本、避難に必要なロープ結びの体験）
・ブルーシートで作った簡易テントの展示、型紙を利用して作り方の説明
・消防、警察の協力（ＡＥＤ、消防車の展示、パトカーの展示）
・スポーツ用品店の協力（防災に関するスポーツ用品の展示）
・ガールスカウトは簡単な防災グッズの配付（ビニール、ウェットティッシュ、飴など）

第６０回　全道スカウティング研究協議会

1　テーマ：活動的で自立したスカウトを育てることを目指して

2　趣　旨：北海道のボーイスカウト運動にとって喫緊の課題である活動の充実と募集について、指導者・団委員が一堂に会し交流を深め、プログラム研究・講演を通じて隊活動の活性化のヒントを見つけ、北海道のボーイスカウトを見直しすることにより今後の運動をより発展させます。

3　主　催：日本ボーイスカウト北海道連盟

4　協　力：日本ボーイスカウト北海道連盟上川地区

5　期　日：平成３０年１０月１３日（土）～１４日（日）

6　会　場：北海道名寄市字日進　　なよろ温泉サンピラー

【日　程】

時　間	内　容
【１０月１３日（土）】	
１４：００～１５：００	受　付
１５：００～１５：３０	開会式／オリエンテーション
１５：３０～１７：００	講　演（福嶋日本連盟コミッショナー）
１７：００～１８：３０	入浴等
１８：３０～２１：００	交流・懇親会
２１：００～	研修所同期会など
【１０月１４日（日）】	
０７：１５～	朝　食
０８：３０～０９：００	朝　礼・スカウツオウン
０９：００～１１：３０	スカウトゲームとは
１１：３０～１２：００	閉会式／昼食／解散

【プログラム研究】

スカウトゲームとは・・・・

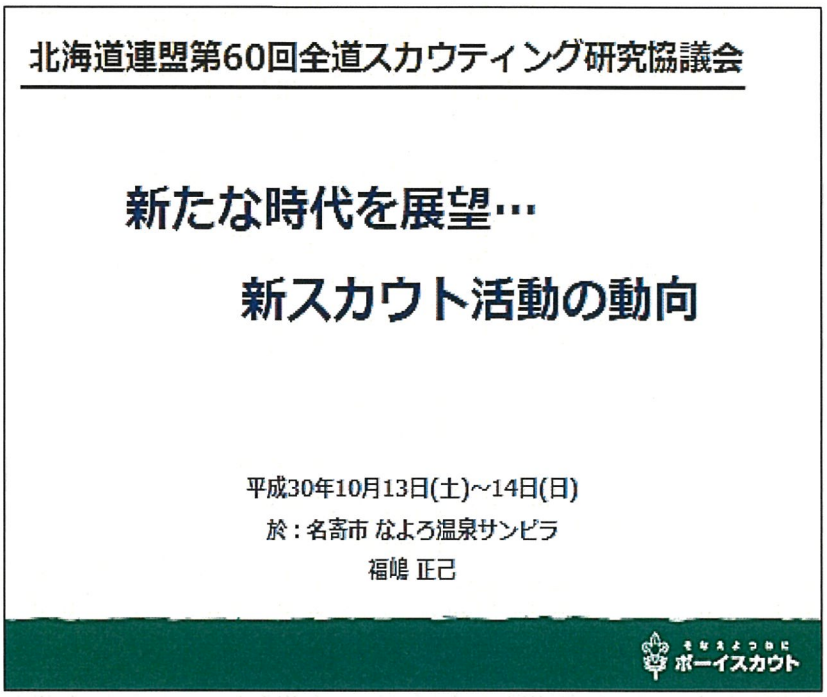
スカウト教育法に準じて、ロープを使用し、ビーバー向け、カブ向け、ボーイ以上向けのゲームを企画・実施・評価をして隊活動で有効使用できるよう理解を深めました。

【講　演】

テーマ
「コミッショナーが考えるスカウティング像」

新たな時代を展望…
新スカウト活動の動向

講　師
日本連盟コミッショナー　　福嶋　正己



みなさんこんにちは、只今、ご紹介頂きました。日本連盟コミッショナーの福嶋でございます。

今年の全国大会の前日に臨時理事会と臨時評議員会がありまして、６年間、プログラム委員長をさせていただきました。そしてこの５月から日本連盟コミッショナーという大役をお受けした訳ですけども、早いもので半年経ってしまいましたが、中々この運動が大きく変わっていくということが大変少なくて、「早く決まらないと困っちゃうよ。」なんて言っておりました。

ボーイスカウト日本連盟、１０万人切りましたが、大きな組織でありますので、色々な会がありまして、例えばプログラム委員会でプログラムを変えて行こうと案が出たら、県連盟コミッショナー会議でお諮りをして全国の県コミッショナーの意見を聞いて、修正をしてＯＫが出たら教育推進会議という各運営委員長とコミッショナーが集まった自治的な施行細則の改定をする会議ですが、ここに掛けて、不足があれば追加するという、最終的には教育規程の改訂で大きく変わるわけですが、各条文の中にアスタリスクが付いているものがありますが、それについては日本連盟の理事会の承認を得なければいけませんのでまずはお知らせをして、次の理事会で協議をして頂くということになるわけですが、理事会が年４回、教育推進会議が年４回、コミッショナー会議が年４回、プログラム委員会も年４回、時期がずれるとドンドンずれてしまいます。施行細則の大きく流れが変わることについては、２年～４年かかるというのが良くわかりました。もっと早く変えないと「うさぎ」のスカウトが「く

ま」になってしまうのです。会社とは違って、行ったり来たりで、色々な考えがあっても中々表に出せないという現状があります。

今日、お話しする内容は、まだ機関決定を受けた話ではありません。プログラム委員長の時から２０２２年の１００年に向けて、日本のスカウティングを見直していかなくてはいけないということを踏まえて、プログラム委員長、指導者養成委員長、組織拡充委員長、広報、セーフ・フロム・ハーム、５委員会等の中で若い人を入れて、１２名程のタスクチームを膳師コミッショナーが招集かけましてそれぞれが持っている課題について話し、それをいつまでに行うか論議をしております。

理事長からは２０２２年の１００年の時には変わってなくてはいけないということで、４年後にはスタートしなくてはいけないということは後３年で決まっていなくてはいけない。大変厳しい環境にありますし、今までのリーダーの考え方を少し変えて行ってもらわないと付いていけなくなるかもしれない。「何で」ということが随分多いので、でも今まで「何で」と言っていて増えていないのですから、この何十年か５プラス、マイナス０で指導者や団委員さんが一生懸命、子どもを集めたり、バザーをやったり、色々なことを行っているけれども、入隊までに至らない。

これは北海道だけではなく全国そうなのです。この運動が子供のために良い事だということが両親、子供に伝わっていないのが現状でしょう。

それで、今ある部門を変更する。来年から民法改正で１８歳から成人になりますが、今のベンチャーは１８歳までで良いのか、今の子供たちが生活している環境の中で我々が昭和３０年代に経験したスカウティングと９８パーセント変わっていない。ユニフォームは変わっていますけど、中身はほとんど変わっていないです。

世界スカウト機構が述べている「原理」「原則」は変えてはいけないですけど、ボーイスカウトで無くなりますから。進歩制度だとか班制教育、野外活動、奉仕活動などの手段は変えて行かないと今の子供たちは付いて来られないと思います。

今の活動の内容が受けているのであれば増えているはずですね。北海道連盟も昭和５０年代は１０，０００人に届く加盟員だったと聞いています。現在は１，２００人ですからね。・・・・・・・・・・日本連盟も同じです。

そんな現状も踏まえて、一過性で楽しめるのではなくて、３年、４年～５年続けていけるプログラム、部門の年齢構成も含めて変えていかないといずれは、ますます加盟員は減少を続けると思います。

個人的な話ですが、３１歳の時に転勤辞令をもらいまして、札幌に６年間住んでおりました。非常に良いところで、トウモロコシとジャガイモと鮭がおいしかったですね。札幌国際や手稲スキー場へもよく行きました。

来た時から北海道は広いなと思っていましたし、この広域でボーイスカウトをやるのも大変だなと感じていました。隊に４０名位いて、団で１００名もいれば指導者も楽しいでしょうけれど、北海道だけではなく、東京も団数が多いということだけで現状は変わらないです。

人数が少なくてもカブコールやカブサイン、ボーイにおいても班集会、班長会議とかやってほしいのです。ユニフォームを着て集まっているだけではなく、隊長とマンツーマンでも「原則」はやらないとスカウティングにならない。

そんなことを含めて話を進めたいと思います。

加盟員の推移

昭和35年(1960)	69，433名	
昭和37年(1962)	91，550名	3NJ
昭和45年(1970)	176，300名	5NJ
昭和57年(1982)	324，000名	8NJ
昭和63年(1988)	303，000名	
平成13年(2001)	203，026名	
平成25年(2010)	127，027名	

そなえよつねに ボーイスカウト

昭和３５年は今より少ない。情報が少ない時代だったと思います。昭和３７年～４５年は右肩上がりです。
ピークは昭和５７年、８ＮＪがあった年です。ここから減少が始まって平成２５年では、127,027 名です。昭和６０年を境に子どもの遊びが外遊びから家遊びに変わった。子供の数が減ったのもありますが、丁度この頃、任天堂のファミコンが流行り出した。昭和５７年は第２次ベビーブームでしたから、しかし第３次ベビーブームは来なかった。社会環境は大きく変化した。

現在の日本のスカウト運動の現状

1、社会環境の変化

戦後の高度経済成長期から安定経済期に

2、少子化

小学校の統廃合の進展

3、指導者の情熱の低下

4、スカウティングの存在感の低下(運動・教育・活動)

5、地域社会の変化、

6、異常な程の受験対策・スポーツ振興熱

そなえよつねに ボーイスカウト

社会環境の変化と共に少子化している。小学校の統廃合が進んでいる。これだけが原因ではないですが、一つの原因ではあります。
指導者の熱意の低下、皆さんはこの運動良い運動だと思ってやっている訳ですから、もう少し情熱を傾けてほしいと思います。スカウティングの存在感が低下している。だからユニフォームを着れという話はありますけど、スカウトは少ないし、ジャケットを着たり、ユニフォームが目立たないですね。それ以上に地域社会から遊離している。地域の応援が無いとこの運動は消滅すると杉原先達がよくおっしゃっていました。
地域社会が大きく変化した。昔は有力者がいて資金的にも場所的にも応援してくれました２代目、３代目になった今は難しくなっています。
それと異常な程の受験対策・スポーツ振興熱です。
社会が大きく変わっているのに昭和３０年代からほとんど変わっていないというのは当然ギャップがありますよね。
北海道の現状は東京連盟もいっしょです。とにかく現状を認識してあきらめないことです。
日本連盟とか北海道連盟がいろいろ言ってもこれは変わらないです。
やはり、現場でがんばってもらわなければ変わらないです。
２人～３人でも継続していかなくてはいけない。

北海道連盟の現時点での問題点

1. 団委員長(団委員)に危機感がない
2. 団委員と指導者との協力体制が出来ていない(熱意がない・研修意欲がない)
3. 若者の地元離れから、指導者の高齢化が進んでいる
4. 保護者から指導者になるケースが多いいが、登録人数が少ない為、保護者も少なく、なり手が中々いない
5. PR活動(チラシ・ポスターの配布、口コミ、保護者の協力、体験イベントの実施等実施しているが、入隊の結びつかない
6. 広域なため、会議、行事、支援等がスムースにいかない

そなえよつねに ボーイスカウト

日本連盟加盟員登録状況表　　平成30年8月末日

加盟員数　96，744名　　団数　1，981団　　隊数　8，023隊

48．8 名 / 団　平均加盟員数

ビーバー隊	1，520隊	7，639名	5．0名
カ ブ隊	1，787隊	16，544名	9．2名
ボーイ隊	1，834隊	15，147名	8．2名
ベンチャー隊	1，611隊	6，075名	4．1名
ローバー隊	1，271隊	7，888名	6．2名

そなえよつねに ボーイスカウト

左図は日本連盟加盟員の平均です。
ビーバー隊　　平均５名です。
カブ隊　　平均９．２名
ボーイ隊　　平均８．２名
ベンチャー隊　平均４．１名ベンチャーになると、いきなり減りますよね。
ローバー隊は大学ローバーが復活したこともあり、　平均６．２名という数字です。

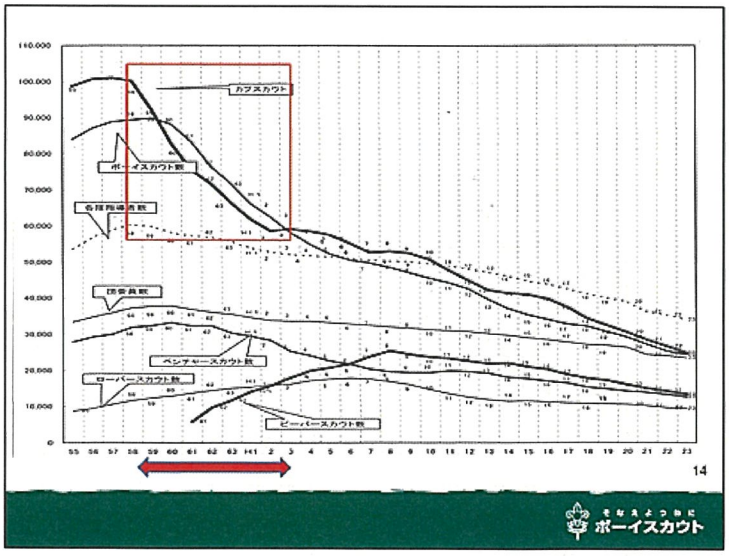
北海道連盟の加盟員数/日本連盟平均　　平成30年8月末

団数　42団　　団委員245名　　指導者350名　　スカウト531名　　合計1,140 名
27名/団

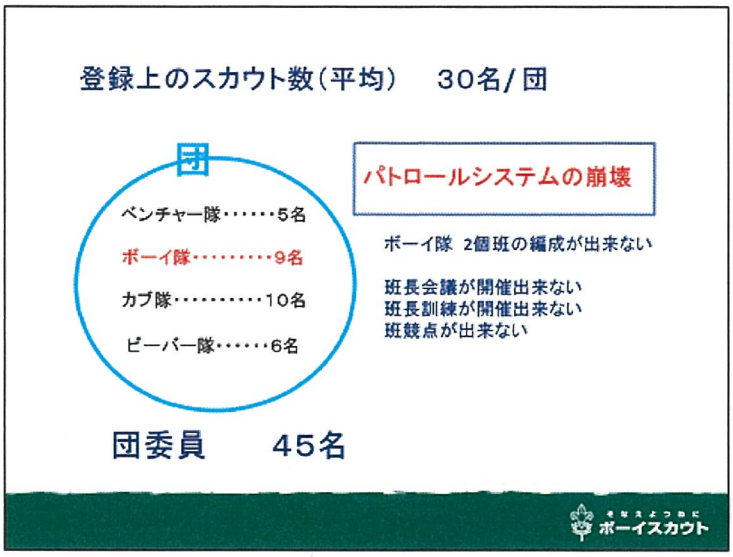
ビーバー隊	28隊	73名	2．6名	5．0名
カ ブ隊	34隊	172名	5．0名	9．2名
ボーイ隊	36隊	153名	4．2名	8．2名
ベンチャー隊	27隊	79名	2．9名	4．1名
ローバー隊	12隊	54名	4．5名	6．2名

そなえよつねに ボーイスカウト

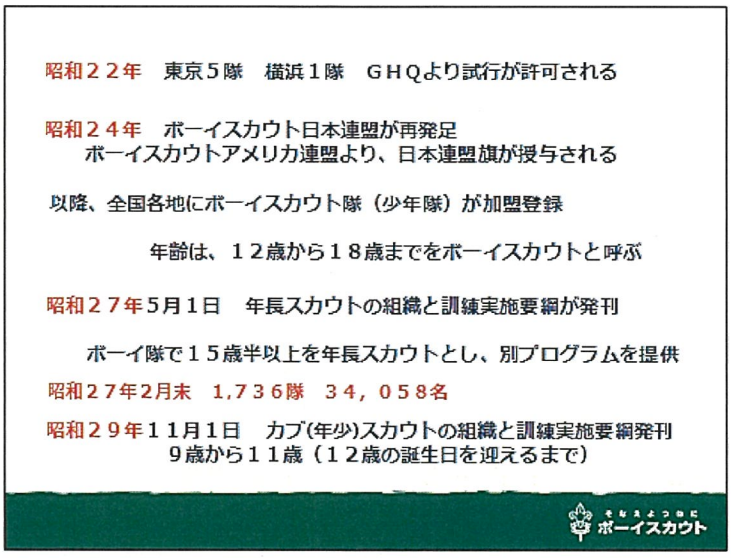
左図は、北海道連盟加盟員数の平均です。団員数平均２７名　日本連盟平均の約三分二です。各隊の平均数も少ないでしょ。だからと言ってあきらめたら北海道連盟無くなっちゃうからオールジャパンじゃなくなっちゃう。現在を認識していただいて、これからどうするかというのを皆さんでもう一回知恵を出し合って検討しない限り絶対に伸びないですから、県連役員、日本連盟の役員が幾らお話ししようが無理です。やはり、現場の指導者が踏ん張ってくれないとこの数はもっと減るでしょうね。
人数が少なくてもプログラムはちゃんとやってほしい。体験した子供たちが学校へ行って楽しかったよと言えば、広がるかもしれない。



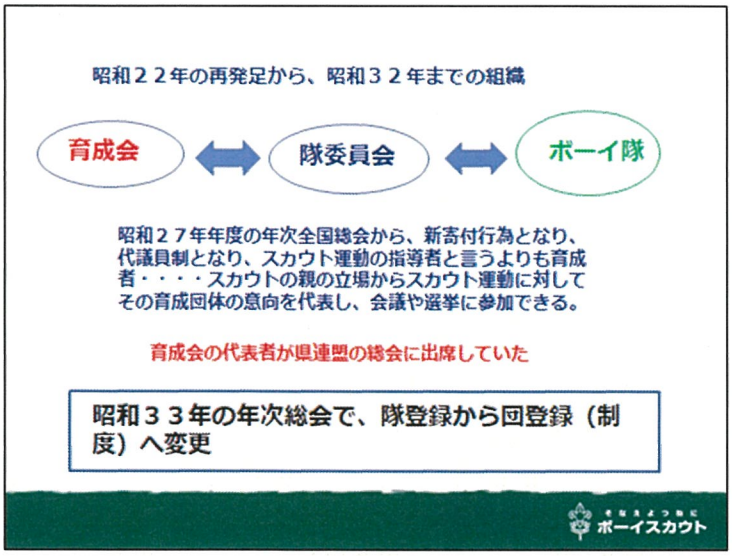
昭和５８年をピークにして、富士山のごとくガクッと落ちている。枠の中、８合目まで、増えている時はないです。これが日本のスカウトの現状です。



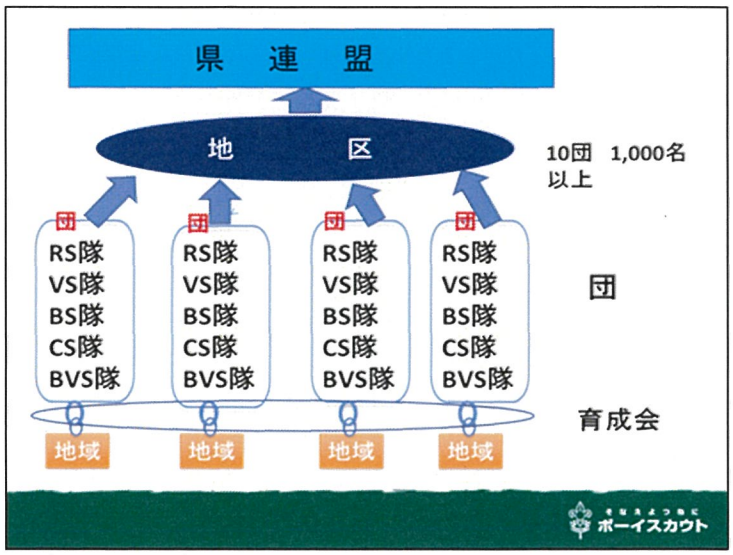
スカウト平均３０名としたときの団の状態です。ボーイ隊では、パトロールシステムの崩壊、方法として、だんだん厳しくなってきている。全国県連盟が全部そうです。



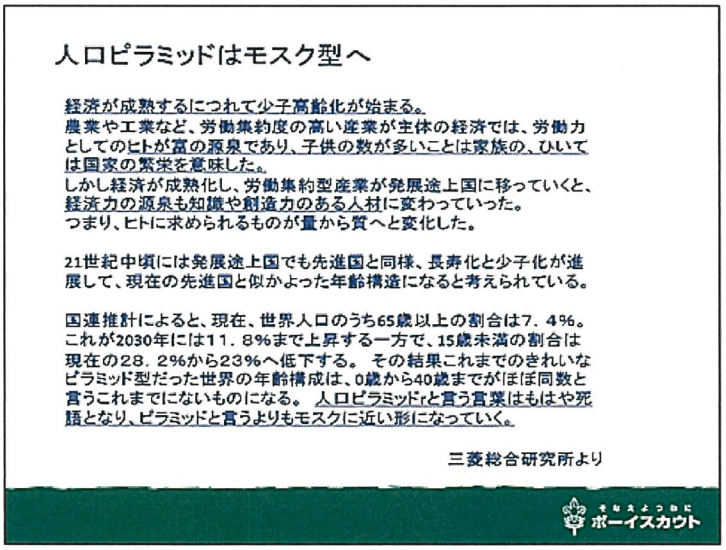
戦後まもなく、発隊したときの流れです。昭和２２年に東京５隊、横浜１隊、がＧＨＱより許可された。昭和２４年　ボーイスカウト日本連盟再発足し、ボーイスカウト隊（少年隊）が加盟登録。年齢は１２歳～１８歳、昭和２７年に年長スカウト（１５歳半以上、年長スカウトとして別プログラムを提供）この時点で１，７３６隊　３４，０５８名の加盟員がいた。
昭和２９年にカブ（年少）スカウトの組織ができた。（９歳～１１歳）



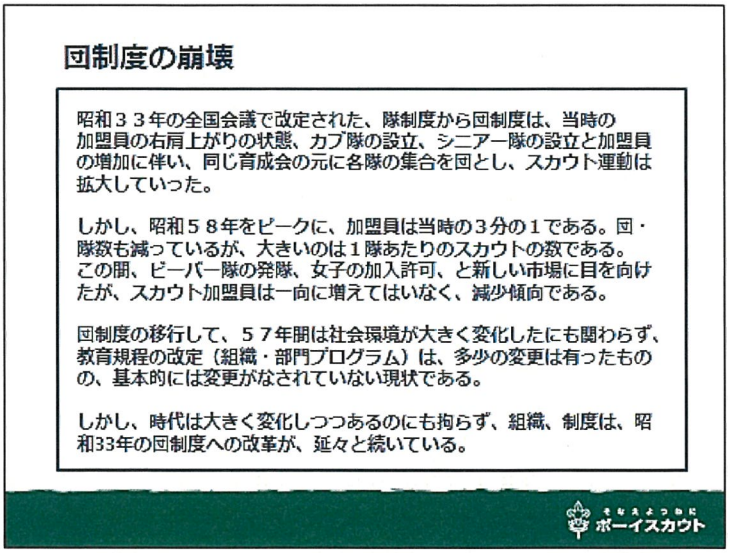
昭和３２年までは隊登録（ボーイ隊）しかできなかったが、昭和３３年から、加盟員が増えていましたから、同じ団という組織の中で、カブ隊、ボーイ隊、シニア隊、ローバー隊と一つの家族としてやって行こうという時代がきた。先ほど話したようにこの頃は加盟員がどんどん増えていましたから、北海道でも団にカブ隊が２個隊とかボーイ隊が２個隊という時代があったと思いますが、それから見ると今は下降状態、
団の中の各隊の数がシングルになった。シングルで褒められるのはゴルフだけですね。今、笑った方はゴルフやってらっしゃる方ですね。



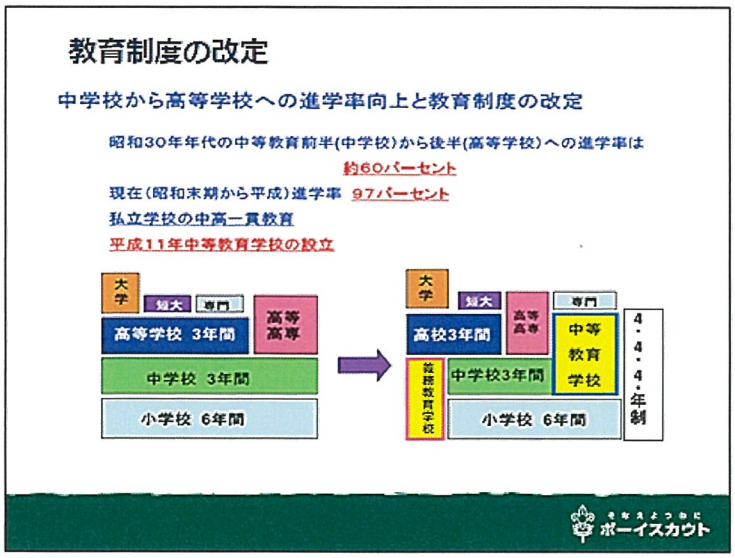
当時はこのような発想でした。地域の中にＢＶＳ隊は当時なかったですが、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊で団を形成していた。
１０個団、１，０００名以上で地区を形成していた。一時、東京は２６地区ありました。今は１４地区、どこの県連も半分くらい地区が減っている。
１０個団、１，０００名もいないですよね。



色々な学者が言っているのですが、経済が成熟すると少子化が始まる。昭和３０年代、高度経済成長の時は、子どもたちはいました。戦争が終わって、若い人たちが戻って来て、新しい生活始めるということで、ベビーブームにもなりました。ところが、経済が成長するにしたがって安定経済になると子供が減るというのは、どこの学者もおっしゃっている通りですね。早くそれを読まなかったということもありますけど、今までの日本は、農業、漁業、工場など労働人口が一か所に集中して、労働集約型経済が成り立っていた。しかし今はヒトに求められるものが量から質に変わった。
戦前はほとんどの国はピラミッド型、子どもが多くて老人が少ない。日本はモスク型（玉ねぎ型）、後、５０年位たつと、どんな地域もモスク型に変わって行くだろう。子供が減っていく。

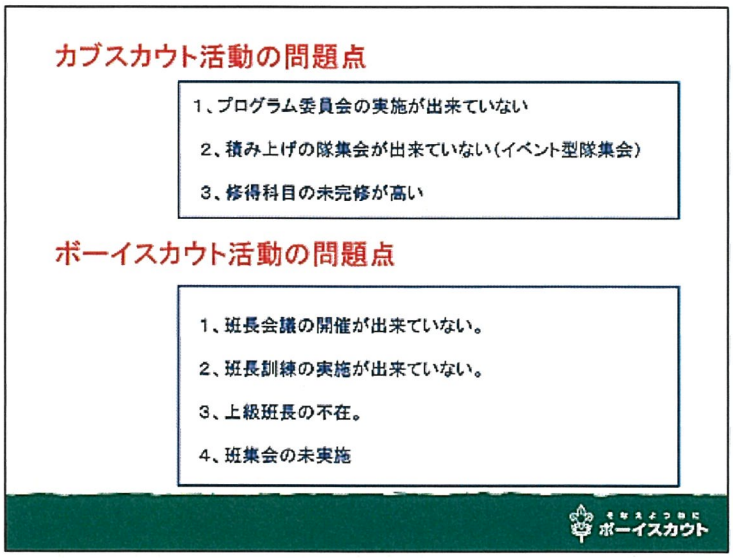


団が崩壊するということは、隊も無くなるということですから、その前に団によって、ＢＶＳ・ＣＳ隊だけの複数団とする。上進したら、ボーイ・ベンチャーだけで形成する団に委託する。
ビーバー１人、カブ１人、ボーイが２人でベンチャー１人となると団で５人ですよ。合併というのは無理ですよ。Ａ団とＢ団が合併しました。一時的には良いですが、統計的には１＋１＝２になるけれど３にはならない。３年たつと１．８になり、５年たつと１に戻っちゃう。テリトリーは広くなる。札幌などは可能でしょうけど、地方はちょっと無理かなと思います。ですから隊という組織を大事にしないとだめですね。

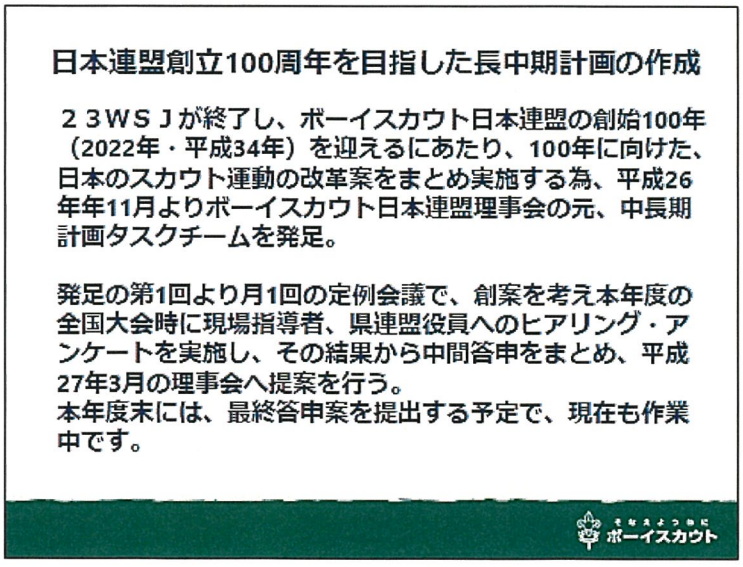


教育制度は左図のように変わって来ています。

カブのプログラムは指導者が考えるのですが、組集会・隊集会ができていない。イベント型の集会になっている。
赤い羽根だとか、キャンプ、ハイキングなどそれだけの集会になっている。
また、修得科目の未完修が高い。カブの修得課目は、必ずその学年で完修をさせる必要が有ります。カブ部門の進歩制度は学年で考えられています。それぞれの学年で修得して欲しい課目を設定しているからです。



ボーイは全国的に班長会議ができてない。当然、班長訓練も出来ていない。
ボーイは全国のボーイ隊のパトロールの平均を数えると１．２個班ですよ。パトロール同士で競争ができない。
今の時代パトロール同士で競争をするのが意味あるのか僕は解らないですが、
複数班あれば、班長会議、班長訓練、対班競争も出来るでしょうが、全国的にスカウトがいない中で出来ない訳ですから無い中でパトロールシステムをどうするかでは無くて新しい方法で出来るのではないかという気がします。だって無理なものは無理ですよね。



日本連盟創立１００周年を目指した長中期計画の作成のため平成２６年１１月より１２名ほどのタスクチーム発足し、皆さんへのアンケートから中間答申をまとめ理事会へ提案をしました。

これからお話する内容は、６年間プログラム委員長をさせてもらったわけですが、その時に１００周年に向けてのタスクチームをやりましたから、日本の現状から、１００周年に向けて何をするという案です。幾つかは今検討されています。ただまだ機関決定されておりませんので、こうなりますよという話ではありません。ボーイ隊とベンチャー隊を一つの隊にしたいと私の希望ですから、ベンチャー隊がハンドブック通り出来ていれば問題ありませんが、ほとんどが出来ていない現状です。

ボーイの延長であったり、プロジェクトと称してラーメンの研究をしたりしていますが、それもいいでしょうけど本来のスカウティングとはちょっと違う。指導者の都合で長期キャンプができない。ベンチャーがボーイ隊の面倒を見る。今までの上級班長とか隊付という指導者のパシリではだめですよ。ベンチャーがボーイ隊の運営をやらなきゃダメです。今は隊長が班長、上級班長をやっている。いい大人が手旗やっています。かっこ悪いですよね。

コミッショナーが講演

ボーイスカウト北海道連盟 活動活性化へ研究協議会

【名寄】ボーイスカウト北海道連盟の第60回全道スカウティング研究協議会が13、14日、市ピヤシリ体育センターフォレストで開かれ、隊活動の活性化を目指した。

ボーイスカウトは、1907年にイギリスではじまった青少年教育で、日本では約10万5000人が活動している。同研究協議会は年1回開かれ、名寄では初めて。道内各地から指導者、団の運営者約60人が参加した。

13日は、教育部門の国内トップ、日本連盟の福嶋正己コミッショナーが「新たな時代を展望～新スカウト活動の動向」をテーマに講演し、求められるスカウティング像を語った。

福嶋コミッショナーは「加盟員は1982年のピーク時に34万4000人いたが、子供の遊びが屋外からテレビゲームなど内へと変わり、社会環境も大きく変化した」と指摘。

講演する福嶋コミッショナー

「指導者の情熱が低下しては、ボーイスカウトの存在感も薄れてしまう。現場の指導者が知恵を出し合うことが大事だ。夏のキャンプをはじめ年間プログラムを人数が少ないからといって止めず、行うことで活動の楽しさを広めていってほしい」とエールを送った。

14日はスカウトゲームの実習を行い、「ビーバー」「カブ」「ボーイ」の年代別向けゲームを企画し、体験した。参加者はそれぞれの地域での活動に生かそうと真剣に取り組んでいた。（吉永雅人）

ボーイスカウト北海道連盟

活動推進へ気持ち新たに

名寄でスカウティング研究協

53人が参加した全道スカウティング研究協議会

【名寄】日本ボーイスカウト北海道連盟主催の第60回全道スカウティング研究協議会が、13、14の両日、体育センターピヤシリフォレストなどを会場に開かれ、道内ボーイスカウト運動のさらなる発展へ意見を交わした。

同研究協議会は、教育部門を担当するコミッショナーを講師に招き、道内42個団あるボーイスカウトの指導者、団委員が交流を深め、プログラム研究・講演を通して隊活動のさらなる発展を図ることを目的としたもの。

毎年全道各地で開催され、名寄では初めて。

研究協議会は「活動的で自立したスカウトを育てることを目指して」をテーマに、指導者ら53人が参加。

開会セレモニーで三国久介同北海道連盟理事長が、胆振東部地震災害に触れ「ボーイスカウトは、備えを常にがモットー。今後も自然災害の発生が予想される。ボーイスカウトらしく備えを万端にしてほしい」と挨拶。

ボーイスカウト日本連盟コミッショナーの福嶋正己さんが「コミッショナーが考えるスカウティング像」をテーマに講演。1982年をピークに加盟員は減少傾向にある実体に触れ「ボーイスカウトが誕生した戦後の高度経済成長期から大きく社会情勢は変化しているが、スカウト活動は昭和30年代から大きく変わっていないのが実態。子ども達に一過性で楽しんでもらうのではなく、長く継続していけるプログラムに変えていかねばならない」などと訴えた。

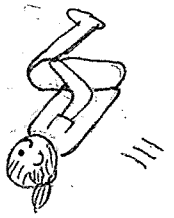
この他、交流・懇親会やスカウトゲームなどを通じ、さらなる隊活動の推進へ気持ちを新たにした。（間所）

昭和44年発行のボーイスカウトポケットブックに記載されている文章で「隊長」の仕事は、年少幹部を訓練指導して彼ら自身で隊を運営させる事であって、隊長が自ら隊を動かす事ではない、さらに隊長の責務は隊員を激励して自ら習わせ、その成長を助けてやることにあって、個々の少年にスカウト技術を教練する事ではないと記載されています。今も昔も変えることなく実施しなければなりません。

ボーイに近い年代が指導をする。そのためには上級班長訓練を日本連盟→ブロック→各県連でやるようにしていく、セーフ・フロム・ハームを含めて、ベンチャーを育てる。最初は組織と取り組まなければいけませんが、いずれは隊長が行えるようにする。高校生年代で活動、フォーラム、大会をするのも良いですし、ただ普段はボーイ隊の面倒を見る。隊付とかじゃなくて、隊の備品係とか隊の記録係など役割を与えて、チームワークを醸成してもらう。決まったことではないので、現状で行くという隊はそれでも良いですが、これから実証隊というのを作っていきたい。

部門の年齢構成についても考えて行きたいと思っております。

第22回全国スカウトフォーラム　県連盟フォーラム情報

県連盟代表		
所属	01 北海道 連盟　札幌 第 10 団	似顔絵等、自分のイメージを自由に書き込んで下さい。 
氏名	小野 愛実　(男・女)	

討議テーマ	私たちにできる社会貢献とは
採択事項 アクションプラン	◎防災意識の向上と地域の連携を図る 1. ベンチャースカウトが地域を回って防災に関わる情報を入手する。 2. 災害時に対応できるマップをつくり、地域に配布する。 3. 防災ウォークを企画して、実行する。
感想、今後の展開、自己アピール等	私は今回の北海道スカウトフォーラムを通して改めて人との交流の大切さを確認しました。社会と聞くと経済などを思い出しがちでしたが、それらの基本となるものは人の活動であり、人が活発になることで、社会の発展や発達につながるとわかりました。さらに、つい最近起きた地震のこともあるので私たちは、私たちだけが地域と関わるのではなく地域の人同士の橋わたしのような存在になることが出来るといいなと思います。
フォーラムに期待すること	全国のフォーラムで考えられた発想や考えを聞くことで北海道のベンチャーの思考の幅が広がることや、普段の生活では会うことの出来ない人との交流で自分自身の精神や技術が発達すること

２０１９年度　ボーイスカウト北海道連盟運動推進方針（案）

◇　地区コミッショナーを中心としたスカウト運動の展開を実行し、隊・団の成人が進んで参画できる環境づくりを目指します。

◇　第２４回世界スカウトジャンボリーに北海道から１０名スカウト参加、交流と仲間意識を養い今後の活動に継承します。

◇　ビーバー、カブ年代の保護者にスカウト運動のＰＲを継続します。

◇　地域社会や他の青少年団体との連携を深め、スカウト運動について啓発を図ります。

≪重点項目≫

〔ビーバー・カブ〕
楽しい集会の研究と新入隊員確保のため、団・地区においてＰＲ事業を継続することを勧奨します。

〔ボーイ〕
進歩課程の展開を進めるとともに、少人数隊の班制教育推進を図ります。

〔ベンチャー〕
進級意欲の向上と魅力あるジュニアリーダーの素質を育みます。

〔ローバー年代〕
日本連盟ローバースカウト会議への参加とＲＣＪ事業への積極的な参加を奨励します。
社会性の涵養とグローバルな視野を広げるための機会提供に努め、若手指導者の育成を目指します。

〔指導者養成〕
社会的責務に応える指導者養成の機会を提供します。

〔組織・運営〕
社会の変化に対応した組織作りと運営に努めます。

〔安全対策〕
体験者・見学者保険に引き続き加入します。
安全対策について団、地区に再確認をします。
防災・危機管理マニュアルについて再確認します。

新春弥栄

2019　新春　誌上賀詞交換

あけましておめでとうございます

ボーイスカウト十勝地区協議会　会長

清水　拓也

あけまして
おめでとうございます

北海道議会議員

遠藤　連

スカウトの仲間を増やして
運動の拡がりを！！

北海道連盟　連盟長
北海道神宮　宮　司

吉田　源彦

〒064-8505　札幌市中央区宮ケ丘４７４

あけまして
おめでとうございます

北海道連盟　先　達
北海道連盟　顧　問

三浦　武

赤平市

あけまして
おめでとうございます

北海道連盟副連盟長
北海道スカウトクラブ幹事長
江別第２団ビーバー隊長

大橋　和子

謹賀新年

スカウトの目線で活動しよう！

ボーイスカウト北海道連盟副連盟長
札幌第１０団　団委員長

長岡　正彦

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟相談役
日本ボーイスカウト北海道連盟スカウトクラブ副会長

入部　道之

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟相談役
日本ボーイスカウト札幌第２６団　団委員長

前田 和道

あけましておめでとうございます

胆振地区

地区協議会会長	滝口 信喜
地区協議会副会長	熊野 正宏
地区委員会委員長	小笠原 貢
室蘭第１団団委員長	髙橋 忠義
室蘭第４団団委員長	小笠原 貢
登別第１団団委員長	木原 靖之
伊達第１団団委員長	辻　正博
苫小牧第２団団委員長	永井 承邦
コミッショナー	村中 啓子
副コミッショナー	牧口 勝治
副コミッショナー	月館 良治
事務長	神　拓斗
事務次長	渡邊 昌彦
地区会計	佐藤 公英
地区監事	相馬 勝彦
地区監事	米沢　健

あけましておめでとうございます

ボーイスカウト北海道連盟参与
ボーイスカウト室蘭第４団　副団委員長

西岡　浩

新年のお慶びを申し上げます

石狩地区

地区協議会長	箱島　盈
地区副協議会長	永岡　裕
地区委員長	小林　幸治
地区副委員長	高塚　浄正
地区コミッショナー	新谷　正
地区副コミッショナー	川越　利朗
地区会計	猪股　巌
地区事務長	喜多　英司

北海道連盟監事
札幌地区副協議会長
札幌第４団団委員長

北　秀継

新春弥栄

～札幌地区協議会～

顧問	藤岡　順正
相談役	北野　義城
地区協議会長	樟本　賢首
地区副協議会長	北　秀継
地区副協議会長	前田　和道
地区委員長	畠山　英昭
地区副委員長	菊地　一泰
地区副委員長	髙橋　眞澄
地区副委員長	陰能　裕一
野営場管理運営副委員長	村上　義憲
指導者養成委員長	野内　吉徳
財政会計委員長	中屋敷　光明
国際委員長	小原　由美子
進歩委員長	上原　克己
広報委員長	千葉　邦郎
事務長	小竹　知巳
事務次長	徳永　教好
事務次長	後藤　恭子
監事	二木　恒治
監事	長尾　恒
コミッショナー	扇間　康弘
副コミッショナー	瀧澤　ひろみ
副コミッショナー	佐々木　裕子
副コミッショナー	上原　克己

明けましておめでとうございます
今年もよろしくお願いいたします

ボーイスカウト北海道連盟札幌第９団

育成会長	三浦　崇
副育成会長	北野　義城
団委員長	樟本　賢首
副団委員長	北野　和

謹賀新年

旭川地区協議会

地区顧問	野原　典雄
	川村　武雄
	森　　豊
協議会長	松倉　信乗
副協議会長	髙橋　明
地区委員長	浅野　玲子
副委員長	山口　淳
野行委員長	山口　淳
組織広報委員長	髙橋　明
リーダー委員長	杉田　肇
野営場委員長	天満　昇
財政委員長	花田　芳人
会計	髙橋　明
事務長	髙橋　明
監事	池内　勝
地区コミ	村上　政義
副コミ	宮澤多佳子
副コミ	杉田　肇

新年！弥栄！！

留萌地区

留萌第１団	団委員長	櫛井　二三夫
留萌第２団	団委員長	下田　満
秩父別第１団	団委員長	寺迫　公裕
羽幌第２団	団委員長	小寺　克彦
稚内第２団	団委員長	遠藤　吉克
美唄第８団	団委員長	マンフレード フリデリッヒ
地区協議会長		櫛井　二三夫
地区委員長		寺迫　公裕
地区コミッショナー		小笠原　祐治

新春弥栄！

日本ボーイスカウト北海道連盟
秩父別第1団　団委員長

寺迫公裕

新春弥栄

北海道連盟参与

小西　恒

北海道連盟上川地区委員長

佐々木　篤美

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟
釧路地区

協議会長	蛯名　大也
地区委員長	田中　卓

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟
釧路第６団

育成会長	菅原　宏樹
団委員長	白浜　正宣

新春弥栄！

≪道連維持財団への更なるご理解とご支援を≫

北海道連盟維持財団　評議員
北海道連盟スカウトクラブ　幹　事
宮内　紀代志

新春弥栄！

北海道連盟理事長
三国　久介

若行老支

北海道連盟スカウトクラブ

会　長	永岡　裕
副会長	西岡　浩
副会長	入部　道之
幹事長	大橋　和子
幹　事	岡田　聰
幹　事	宮内紀代志

2019
新春弥栄

コミッショナー	今井　建
副コミッショナー	吉田　淳一
副コミッショナー	飯田　貴光
副コミッショナー	加藤　由麻

謹賀新年！

スカウトに楽しいプログラムを！

日本ボーイスカウト北海道連盟
副理事長　下田　好徳

新春弥栄！

ボーイスカウト北海道連盟
常任理事　北野　和

新春弥栄！

WBスカウトコース参加者募集中

ボーイスカウト北海道連盟
常任理事　池田　君松

新春弥栄！

ボーイスカウト北海道連盟
常任理事　野内　吉徳

活動的で自立したスカウトを
育てることを目指して

ボーイスカウト北海道連盟
副理事長　扇間　康弘

そなえよつねに
ボーイスカウト

斧の響き　１５５号（２０１９年1月1日発行）
発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟 理事長 三国久介
〒062-0934 札幌市豊平区平岸４条１４丁目３－４０
北海道ボーイスカウト会館内
Tel 011- 823-7121／ Fax 011- 814-9377　E-Mail　bs-hokkaido@douren.org